

抗凝固薬服用患者に対する抗凝固薬中和薬に関する後ろ向き研究 に関するお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年6月26日～2025年3月31日

〔研究課題〕

抗凝固薬服用患者に対する抗凝固薬中和薬に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕

高度救命救急センターにおいて、抗凝固薬を服用している患者様に対し、抗凝固中和薬が適正に使用されているかを明らかとすることです。

〔研究意義〕

高度救命救急センターでは、抗凝固薬服用中でありながら、重篤な出血性疾患（消化管出血、脳出血など）で搬入される患者や搬入後緊急で処置や手術が必要な患者を受け入れることは少なくありません。一方で近年、イダルズマブや静注プロトロンビン複合体製剤など新規抗凝固薬中和薬が登場しました。そのため、これら抗凝固中和薬剤を投与し、処置を行うケースが増加しているのが実情であります。しかし、抗凝固薬中和薬は高価である事、副作用として血栓症のリスクがある事からも、適正使用が望まれております。そこで、当院における抗凝固薬中和薬の適正使用を推進するため、電子カルテを用いて当院における抗凝固薬中和薬の実態を調査することとしました。

〔対象・研究方法〕

対象患者：2014年4月1日から2019年5月31日までに帝京大学医学部附属病院高度

救命救急センターに搬入された患者で抗凝固薬を服用していた入院患者様全員と致します。

研究方法：院内の電子カルテを用い、過去にさかのぼり、患者様の抗凝固薬の種類、抗凝固薬中和薬使用の有無、年齢、性別、既往歴、搬入時の所見、治療法、転帰などの調査を行います。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院薬剤部

〔個人情報の取り扱い〕

データは匿名化（個人が特定できる情報を除外）した形で登録されていますので個人が特定されることはありません。研究実施中は調査データを薬剤部内の所定のPC内に保存します。研修終了後は倫理委員会にデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年間保管の後、廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 帝京大学医学部附属病院薬剤部 部長 安野 伸浩

研究分担者： 帝京大学医学部附属病院薬剤部 副主事 今中翔一

所属： 帝京大学医学部附属病院薬剤部

住所：板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211 (代表) [内線 7828]